

日本語と英語の表現

最近、老化予防を兼ねて、また昔、留学生時代に英語で会話をしていたノスタルジヤもあり、毎朝少しでも英字新聞を読むことにしている。時折、国際的な興味のある記事を見つけるのも楽しい。度々気がつくことは、同じ内容の記事でも、日本語で読むよりも英語で読むほうが、よりリアルで意味がはっきりと伝わる。殺人事件や戦争の記事、シリアでの拷問などは英語で読むと気分が悪くなることがある。今回の北朝鮮での出来事、その国ナンバー2の親族の処刑なども同様である。

日本語はしばしば主語を抜かしてぼかしたり、また目的語がはっきりしない場合がある。また婉曲で遠まわしな言い方をすることがある。結果としてそれが誤解のもとになる。

間接税である消費税は非常に複雑な制度であるにもかかわらず、国はそれを一般の税金（直接税）と同じような考えで説明をしたために、医療は非課税という言葉に、我々医療関係者や一般国民も騙されたことになっている。敗戦を終戦と言ったのも同じである。

意味が不明でも気心の知れた相手であれば、いわゆる以心伝心でそれでもよいかも知れない。しかしグローバル化の時代、外国人相手ではしばしば誤解を招く恐れがある。

古来日本では、はっきりと物を言う人は嫌厭されがちである。尤も処世術としては良い点もあり、円滑な人との交わりには必要でもあったとも考えられる。

しかしこれからは、はっきりと物を言わなければ、いらぬ誤解を招くことになる恐れがある。外国人相手では特に注意しなければならない。

医療でもヒヤリハットや事故報告書を書くときは日時、主語、目的語、述語、原因、事後対策など必要なことはハッキリと書くようにしなければならない。

平成 25 年 12 月 16 日

尼崎中央病院 理事長 吉田静雄
兵庫県民間病院協会 副会長